

- ☐生活支援☒見守り☒協議体
- ☐買物支援☐配達☐その他
- ☒移動支援☒居場所づくり

34

星原校区協議体「たすけ愛体」の活動について

NEW

中種子町

地域福祉課



地域の概要



限界集落を含む8つの集落からなる星原校区は、種子島の中央にある中種子町内の北部に位置する。海岸沿いの町で主な産業は農業。10年程前までは漁業も盛んだったが、後継者問題等で衰退。人口398人、高齢化率56.5%の超少子高齢化が顕著な地域。



取組のきっかけ

生活支援体制整備事業を推進するにあたり、各校区に協議体「たすけ愛体」を立ち上げた。校区で結成されたメンバーで集まり、住み慣れた地域でいつまでも暮らしていけるような助け合いの地域づくりを目指して活動している。定期的開催し、校区内の個人ニーズや地域課題を情報共有する際に、集落担当者より浜津脇集落のゴミ屋敷問題と竹之川集落の集いの場消滅という課題が上がってきた。



取組の目的

- 助け合いの地域づくり
- 日常生活での困りごとの支援
- SOSを出せない人の実態把握と支援の検討



これまでの経緯

年・月	出来事
令和元年11月	星原校区協議体「たすけ愛体」結成
令和2年～4年	コロナ禍にて活動休止
令和5年1月	「たすけ愛体」再始動。おたすけ一覧表（※）を75歳以上の全世帯へ配付（※緊急時の連絡先や民生委員、困ったときのサービス事業所の連絡先が記載された一覧表）
令和6年3月 5月	○たすけ愛体開催時に浜津脇集落のゴミ屋敷問題の個人ニーズが上がる ◆たすけ愛体新メンバー（校区長）へ挨拶に伺った際に竹之川集落の集いの場消滅の情報提供あり
令和6年7月	竹之川集落の集いの場の必要性を訴える声や、ゴミ屋敷周辺住民からのクレームもあり、たすけ愛体にて対応を協議 ○民生委員でもあるたすけ愛体メンバーを中心にゴミ屋敷住民と話し合い、清掃の承諾を得て、日程調整を行う ◆竹之川集落住民に集いの場復活に向けての協力依頼するも協力得られず
令和6年8月	○たすけ愛体メンバー3名、近隣住民4名の協力をもらい、清掃実施
令和6年9月	◆隣集落の集いの場参加者の協力を得て、竹之川集落の参加者も一緒に活動することとなる
令和6年10月	◆隣集落への移動のニーズにサービスのマッチング



活動の概要



●星原校区2層協議体「たすけ愛体」年に3～4回開催。
主要メンバーで校区内の地域課題を抽出し、解決に向けて話し合う。
〈協議体メンバー〉
校区長・郵便局長・民生委員・住民女性消防隊（独居高齢者訪問）・行政担当者・SCで構成。
今回の地域課題は浜津脇集落のゴミ屋敷と竹之川集落の居場所づくり。
○ゴミ屋敷清掃は協議体メンバーの近隣住民との良い関係性や働きかけにより実施できた。
◆竹之川集落の居場所づくりにおいては、集落での協力は得られなかったが、他集落への働きかけで隣集落の活動に週1回参加させてもらうこととなり、移動支援にも結び付いた。



取組における行政担当者・生活支援コーディネーターとしての役割

〔行政担当者としての役割〕

- SCとの定期的な情報共有
- 協議体の活動把握と協力体制

〔SCとしての役割〕

- 活動に関する連絡役
- 地域課題・個人ニーズの把握
- 関係各所との連携と協力体制づくり
- 地域住民、協議体メンバーとの良い関係性づくり
- ニーズとサービスのマッチング



現時点での到達点（効果・課題など）

〔効果〕

- 「たすけ愛体」が再始動し、2年が経過し、メンバーも協議体の役割を理解出来てきている。
- 校区内の課題をメンバーで把握し、我が事ととらえ、解決の糸口を見つけようと積極的に動くことが出来ている。

〔課題〕

- 毎年、協議体メンバーの入れ替わりがあるため、引継ぎが上手くいっていない。
- 住民への協議体の周知、事業への理解。